

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672000110
法人名	株式会社 うえもり
事業所名	グループホームふれあい
所在地	〒629-2411 京都府与謝郡与謝町字明石652-1 (電話) 0772-44-1010

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月24日	評価確定日	平成21年8月17日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,600 円	

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.05 歳	最低 61 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは与謝の町の緑あふれる田園地帯に位置し、普通の家での暮らしを実現するために民家を改修し、看板の題字は利用者が書かれており、中に入っても近所に遊びに来たかのような雰囲気でもて迎えてくれるホームです。運営者は地域に根差した施設をと、宅老所から今日のホームを立ち上げ、在宅で入浴が困難な高齢者にボランティアで入浴支援をするなど、地域をも支えています。2ユニットといっても隔たりがなく、利用者は自由に行き来し、好きな場所で寛いでいます。職員の離職もほとんどなく、利用者が生き生きとした毎日が送れるよう、地域や行政も加わり、良い関係性が築かれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点としてホームの存在を地域にアピールする取り組みとして、地域の文化祭への作品の展覧を実現させ、利用者の励みにもなっています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は全員に白紙の自己評価票を配布し、記入してもらったものを、管理者や主任が取りまとめて作成しています。また出来上がった自己評価票をもとに会議を開催し、全員で課題等についても話し合うなど、全員で取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政からの要請もあり、4か月に一度、家族、区長、町職員、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加し、開催されています。会議では、ホームから、行事や取り組みについての報告がなされる他、他方面から意見をいただき、ホームと地域との付き合い方について模索するよい機会となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には、必ず声をかけ、意見や要望を聞くように努めています。手紙を書く際にも意見を求め、毎回の運営推進会議の出席をも呼びかけています。また外部の苦情申し立て機関の窓口を書面に掲載し、家族が意見や要望を言いやすいよう配慮されています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	回覧版等から情報を得て、地域の祭りや行事に参加し、ホームの夏祭りにも近隣の方の参加を得ています。近隣保育園とは行事に参加したり、園児が散歩の途中で立ち寄り等、交流があります。また地域の防災訓練に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出展し、ホームが地域の一員としての存在をアピールしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が生き生きと暮らし、利用者同士、家族、職員、地域が助け合いながら生活することを目指し、ホームを立ち上げる際にケア理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修でも伝えるが、毎日のミーティングや会議の際に、全員で理念に立ち返り確認し合い、思いを共有している。理念は誰からもよく見えるように玄関に掲げられ、職員の名札の裏にも表記されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧版等から情報を得て、地域の祭りや行事に参加し、ホームの夏祭りにも近隣の方の参加を得ている。近隣保育園とは行事に参加したり、園児が散歩の途中で立ち寄り等、交流がある。また地域の防災訓練に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出展し、ホームが地域の一員としての存在をアピールしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームの存在を地域にアピールする取り組みとして、地域の文化祭への作品の出展を実現している。また今回は全員に白紙の自己評価票を配布し、記入してもらったものを、管理者や主任が取りまとめて作成している。出来上がった自己評価票をもとに会議を開催し、全員で課題等についても話し合われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政からの要請もあり、4か月に一度、家族、区長、町職員、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加し、開催されている。会議では、ホームから、行事や取り組みについての報告がなされる他、多方面から意見をいただき、ホームと地域との付き合い方について模索する良い機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者は運営推進会議へも参加いただいております。管理者も町の介護保険運営委員として頻りに会う機会があり、馴染みの関係が出来ている。何かあればすぐ相談に乗ってもらえることが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者が月に一度、職員から利用者の様子を聞き、個々の家族宛に手紙を書いて報告している。また家族の来訪時にも暮らしぶりを伝えている。通院時や何か変わったことがあればその都度電話等で連絡している。	○	更に家族の安心となるよう、毎月の報告の際に利用者の日々の写真や健康状態が分かる資料を同封するなど、具体的な利用者の様子を伝えられてはいいかでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、必ず声をかけ、意見や要望を聞くように努めている。手紙を書く際にも意見を求め、毎回の運営推進会議の出席をも呼びかけている。また外部の苦情申し立て機関の窓口を書面に掲載し、家族が意見や要望を言いやすいよう配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2か月に一度親睦会を開催したり頻りに話を聞くことで、ストレス軽減に努め、職員が悩みや相談事が言いやすい環境作りを努めている。新人職員に対しても、1か月程かけてゆっくり利用者との関係作りが出来るよう他の職員がフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度や勤務体制を加味して、なるべく研修に参加できるよう配慮している。受講後はホームに持ち帰り、会議において他の職員に報告し、資料は全員に配布して情報の共有を図っている。ホーム内でも資格取得に向けた実技の勉強会や、ケアの実技指導をしてスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会と全国のグループホーム協会に所属し、会議等に参加している。現在町内でネットワークづくりについての動きはあるが、実際の交流には至っていない。	○	管理者のみならず、職員が他のホームを見学したり、交換研修等を行なうことで、これまでのケアについて振り返り、気づきや自信にもつながる。ネットワーク作りにも参画し、交流の場を確保されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	早期の入居を希望される方も多く、申し込みの際に見学されたり、何度か見学をしていただき、入居に結びつけることもある。また職員が入院先や自宅に向き、情報収集を行なっている。入居後は職員の寄り添う姿勢と家族の協力で徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物作りや餅つきの準備等、職員は利用者から多くの生活の知恵を学ばせてもらっている。また楽しみや喜びだけではなく、他の利用者とのさまざまな別れを体験し、悲しみをも共有することで、一緒に生活していることの大切さを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取るなかで、なるべく思いを引き出すよう努めている。困難な場合は、しぐさや行動からその思いを把握したり、家族に聞いたりしている。情報はセンター方式のアセスメントを利用して共有し、毎日のミーティングの際にも情報を伝達している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から希望を聞き、アセスメントも一部家族に記入をお願いしている。それを基に毎月開催されるカンファレンスで話し合われ、職員の思いや気づきを話し合い、ケアプランに反映させている。必要に応じて主治医の意見をも取り入れた内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは初回は1ヶ月後に見直し、その後は3カ月ごとに見直しされている。独自の見直しシートを活用し、カンファレンス等で課題分析され、新たなケアプランを作成されている。日々の記録も試行錯誤を繰り返して現在の様式を作り上げ、計画に沿った日々の記入がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助はほとんど職員が行なっている。嗜好品の買い物や足湯への外出、理髪店へひげそりに出かけたり、出身地での敬老会の参加を支援している。また近隣の入浴困難な高齢者にボランティアでホームでの入浴を支援している。現在は孫の結婚式への参加を希望する利用者に対する支援を検討中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方からの利用者やもともとホーム医が主治医の利用者も多く、希望は聞いているが、全員がホームの主治医を利用している。2週間ごとの往診があり、毎週訪問看護の来訪により、日常の健康管理を行なっている。その他の治療は必要に応じて職員が同行して通院している。夜間や緊急時には主治医の指示を受け対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは看取りの経験もあり、入居の際に家族に方針を説明し、希望を聞いている。重度化した場合には再度、希望を聞き、家族や主治医、職員が相談しながらその人にとっての最良の方法を検討している。職員間でも訪問看護師に依頼し、医療に関する勉強会を行ない、スキルアップを図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に、利用者は人生の先輩であり、プライバシーを損ねることなく、その人にとっての配慮した声かけをその都度心がけるよう伝えている。個人の記録は事務所の書庫に鍵をかけて適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに沿って声かけはするが、無理強いすることなく本人本位に行動できるように支援している。食べることの大切さを認識し、食材の買い物や畑での旬の野菜を収穫を支援し、希望があれば晩酌にも応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回食材の買い出しに利用者と一緒に出かけ、担当職員が当日、利用者に希望を聞きながら献立を決めている。下ごしらえや調理、後片付け等を利用者に手伝ってもらい、同じ食事を一緒にいただいている。隣の畑で収穫された野菜が毎日食卓を飾り、それが話題にもなる食事の時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後から夕方まで入浴が予定されているが、希望により、毎日や夜入浴される利用者もいる。ユニットが平面上で自由に移動できるため、大小2か所の浴室を状況に応じて使い分けている。入浴拒否が見られる場合も職員の工夫や適切な対応で入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下掃除や調理、ホームの周囲の草取り、畑での野菜の収穫や朝の新聞取り等役割を担ってもらっている。習字の得意な方にはホームの看板を書いたり、町の文化祭に出展したりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先のベンチや中庭で日光浴したり、隣の畑で野菜の収穫をしている。週に一度は車椅子の利用者も含めて外出できるよう支援している。ホーム内でも職員が促し、なるべく歩いてもらうよう心がけている。	○	日常的な外出は、利用者にとっての楽しみであり、気分転換やストレス発散、五感刺激にもなるため、短時間でも戸外に出る機会を確保し、外出を楽しめる支援が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることは身体拘束になると認識し、日中の施錠は一切していない。一時的に朝1時間施錠をしたことがあったが、職員間で話し合い、開錠し鍵をかけないケアに取り組んでいる。見守りを徹底し、出たそうにしている利用者には、声かけし対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中や夕方を想定した避難訓練は2ヶ月毎に行ない、年に2回は消防署の指導を受けながら、地域の人々も交えて行なっている。また行政も参画しての地域の防災訓練には利用者一緒に参加している。ホームでは持ち出し用の非常袋も用意する等万全を期し、今後は夜間も想定した訓練を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回記録し、全量食べれない時は内容を記録に残している。水分量は必要な方のみ記録している。食材やメニューは記録に残し、前後のメニューを参考に献立を立てている。状態に応じておにぎりやお粥、食材を刻んだり、ほぐしたりして提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修した建物で、普通の家にいるような雰囲気が味わえる建物である。ユニット間も平面上で移動でき、隔たりを感じることなく、利用者も自由に行き来し、好きな場所で寛いでいる。和室が基本で寝ころぶことが出来る空間を大切にしている。中庭の洗濯物が風に揺れ、玄関先のベンチや居間のソファで転寝をする姿が見られ、自宅そのものの生活のように過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には掛け時計を用意し、普通の家としての暮らしを継続してもらうため、基本は和室としているが、洋室も用意されている。利用者は自宅からベッド、タンス、テレビ、ドレッサー、仏壇、人形等を持参され、居心地良い配置をして過ごされている。		